

断面（層構造）からみた消化管の病理

獨協医科大学病理学（人体分子） 井村 穰二

【講演概要】

口腔から肛門に至る消化管は管腔臓器からなり、その壁の構造も比較的類似している点が多く、他臓器に比して一見単純な構造を呈しているようにもみえる。しかし、壁を構成している細胞・組織は複雑であり、食物の通過に際して、消化や吸収ならびに様々な外的刺激に対する防御機能としての粘膜上皮が内腔を覆い、その支持組織である粘膜固有層や基盤となる粘膜筋板、さらにその深層には様々な固有腺、血管並びに疎性結合組織からなる粘膜下組織が存在する。また、食物の移動における蠕動運動や括約筋機能をつかさどる様々な固有筋層が輪状あるいは縦走して走行し、これらの動きを制御する様々な神経ネットワークも網の目のように存在している。この様に一見単純な臓器のようであるが、実は様々な機能を維持するためにも壁の構造は重要な役割を担っている。

疾病時においてもこれら層別にみた病変が存在し、病変の主座が何れの層にあるかによっておのずと形態像も異なってくる。従来の消化管病変に対する放射線診断学は造影法に代表されるように、粘膜面の変化を捉えること主流をなし、それに追随するように肉眼的な観察が病理医にも求められていた。しかし、粘膜面の観察は、近年内視鏡へと移行しつつある反面、CT、MRI ならびに EUS など、消化管の断層から見て病変を捉える手段が数多く開発されている。一方、消化管病理における顕微鏡的観察の基本は一断面とはいえ、断層から病変の広がりや把握してきた。この様に、一旦は分離したようにもみえるが、今に来て両診断学が、目指さんとする方向性が共通化しつつあるようにも思える。

当日は、層構造から見た病変の一般的な特徴を解説すると共に、現状の問題点は何か、今後、それらを解決するにはどのような点を注意し、改善すべきか、事例をあげて述べたいと思う。

【質問】

MLP の内視鏡画像について。(私は何例か経験がありますが…) 先生の提示された画像は通常のリンパ濾胞と思いますが、如何でしょうか。

【回答】

リンパ濾胞ではないかご質問の症例は、数枚提示した内視鏡写真の中の比較的小型の隆起性病変が多発した症例だと思われます。確かに、MLP の典型例では多発した大型で、表面が既存の粘膜で覆われたポリープ病変ですが、Mantle cell lymphoma の初期像や治療経過中では小型の一見、リンパ濾胞様に見えることがあり注意が必要です。組織学的にも固有層から粘膜下層に形成された濾胞様結節性病変の中心には胚中心様構造を持っていますが萎縮性で、その周囲、所謂、Mantle zone を中心とした腫瘍細胞の増生が認められます。

【質問】

胃の粘膜層の脂肪には CT 上、個人差がありますが、HP や HBV による慢性炎症と関連しているのか否か、何か知見があればご教示ください。

【回答】

確かに、日常、手術例を観察していると、粘膜下層の脂肪組織の量は個人差、特に加齢に伴って減少している印象を持っていますが、特にそれについて検討したことはなく、明確な事実をお伝えできません。但し、HP 感染性胃炎の主座は粘膜固有層であり、その波及が粘膜下組織にも及んでいることは殆どなく、それが原因で粘膜下組織の脂肪織の萎縮をもたらしていることは少ないと思います。一方、HBV とは B 型肝炎ウイルスのことでしょうか？ 正直、C 型肝炎ウイルスを含め、消化管における肝炎ウイルスに基づく病変に関しては知識をもっていません。但し、EBV 胃癌症例では、不思議なことに In situ hybridization 法を用いても Virus genome は腫瘍細胞のみに認められ、非腫瘍性病変には認められません。よって、一時的に EBV が胃炎を惹起している可能性は少ないのかもしれませんが、その影響が粘膜下の脂肪織に及ぶことは極めて少ないのではないのでしょうか。

【質問】

Hamartomatous polyp の成因について教えて下さい。

【回答】

過誤腫性ポリープ病変の成因に関して説明することは甚だ困難です。それは過誤腫は以前腫瘍と考えられ腫の文字が用いられてきた経緯がありますが、そもそも定義上では、過誤腫は正常に存在する成熟細胞の局所的増殖であって腫瘍とは現在考えられていません。但し、Peuts-Jeghers 症候群に観られる過誤腫性ポリープ病変の一部に腺腫が合併することがあり、時に癌合併の報告もあることを考えると、発生母地として過誤腫性病変は無視できないと思います。しかし、消化管以外にも本症候群の患者では他臓器に癌を合併する頻度が高く、その原因として、遺伝子不安定を含め、様々な遺伝子異常の蓄積の結果、腫瘍が発生してくる可能性が高いと考えられています。その初期段階として過誤腫が存在するかどうか今後の研究課題かと思えます。